

助産師出向事業の実施状況報告

実施施設	病院→診療所
出向助産師	①助産師歴 5年 分娩介助件数 78件 ②助産師歴 5年 分娩介助件数 63件 ③助産師歴 5年 分娩介助件数 30件
出向期間	①2週間(令和6年12月4日～令和6年12月17日) ②2週間(令和7年1月14日～令和7年1月24日) ③2週間(令和7年2月17日～令和7年2月28日)
出向者の目標	・正常産婦の分娩介助、正常新生児の看護を中心に分娩介助実践を積み重ねることにより、助産師が主体的にアセスメントし実践する姿勢や、多様な産婦のニーズに対応する姿勢を学び、分娩介助実践能力の向上を図る。 ・出向先での実践経験を部署に持ち帰って展開し、部署のスタッフの分娩介助実践に還元する。 ・地域の中での「診療所」と「病院」における相互の役割と機能について学び、地域医療施設との連携を深める。
主な業務内容	分娩介助 ①無痛分娩3件、フリースタイル分娩1件 ②無痛分娩2件、分娩第Ⅰ期のケア2件 ③分娩介助3件(無痛分娩2件)、分娩第Ⅰ期のケア2件、帝王切開2件 バースレビュー、新生児のケア、母親学級見学、産後ケア見学、沐浴指導見学
気づき・学び	・助産師が正常から逸脱しないよう、早期に異常を予見し介入していることを学んだ。 ・骨盤が開く体位、会陰裂傷を予防するための会陰保護技術、骨盤誘導線を意識した児の娩出などを学んだ。 ・妊娠期から十分な分娩経過や医療介入の説明を実施することで、医療者と産婦が信頼関係を構築し、産婦自身が主体的に出産に向き合い、積極的に分娩に参加していることに気付いた。
今後取り組みたいこと	(出向元)出向者が学んだ技術や姿勢を部署で実践し、後輩育成にも還元する。また、引き続き出向事業を利用し、実践能力の向上を図る。 (出向者)アセスメント能力を向上させ、正常から逸脱させない技術を研鑽し、自立した分娩介助実践を行う。妊娠期からの保健指導を見直し、患者の主体性を育む支援を行う。
成果	・出向事業で実践した分娩介助は部署の助産師1人あたりの半年分の分娩介助件数に相当し、短期間で分娩介助を繰り返すことで実践能力は向上したと考える。 ・部署では学ぶことが出来ない技術や、正常な分娩進行から逸脱させない助産師の強い思いを学ぶことが出来た。 ・学びを共有することで、正常から逸脱しないための助産師の介入や、フリースタイル分娩等患者のニーズに対応した分娩介助の必要性について、部署の助産師に動機付けることができた。